ニチヤン

生徒躍動 はつらつと

近畿高文祭徳島大会

将棋

徳島市立女子団体 集中力発揮し準優勝

第38回近畿高校総合文化祭徳島大会の将棋、マーチングバンド・バトントワリング、日本音楽など7部門の競技や発表が17、18日、徳島と鳴門の両市であった。徳島市の県教育会館で行われた将棋の女子団体で徳島市立（上地桃珠子さん、藤原叶果さん、宮城千里さん）が集中力を発揮し、準優勝に輝いた。最終日の25日はアスティとくしまで吹奏楽と閉会式がある。（田尾聡）

将棋女子団体で対局する徳島市立の上地桃珠子さん（右端）ら＝県教育会館

将棋は2日間の日程で指され、女子団体の徳島市立がメンバーの途中欠場をものともせず準優勝した。7チームの総当たりで行われ、6戦全勝だった2年の上地桃珠子さん(17)は「地元開催なので平常心で臨めた。目標だった3位を上回ることができてほっとした」とほほ笑んだ。

初戦の玉川（滋賀）と続く洛北（京都）に連勝。しかし、3戦目は1年の藤原叶果さん(16)が頭痛に見舞われて実力を発揮できず、優勝した近大付属（大阪）に1対2で敗れた。その上、藤原さんは2日目を欠場した。

残る3戦は上地さんと1年の宮城千里さん(16)の2人で戦うことを余儀なくされた。勝つには2人の勝利が必須。「藤原さんの分まで力を尽くしたかった。一敗も許されない状況だったけど頑張った」と、宮城さんは振り返る。

苦境に立たされたが上地さんと宮城さんは白星を重ね、御影（兵庫）高田（三重）鳥取西（鳥取）に3連勝し、通算5勝1敗で競技を終えた。

徳島市立は、昨年の近畿高文祭大阪大会で全勝優勝。2連覇はならなかったが今年もレベルの高さを見せた。高校から将棋を始めた3人は「和やかで楽しいメンバーが集まった将棋部が好き。さらに力をつけたい」と声をそろえた。

一方、10チームで争った男子団体に出場した徳島市立は、上位6チームによる決勝トーナメントに進めなかった。個人戦では、男子の選手権級に挑んだ城北2年の森岡佑亮さん(16)と、B級に出場した城東1年の竹見優希さん(16)が予選で2勝し、決勝トーナメントに進んだが、初戦で涙をのんだ。

準優勝した徳島市立の（左から）藤原さん、宮城さん、上地さん